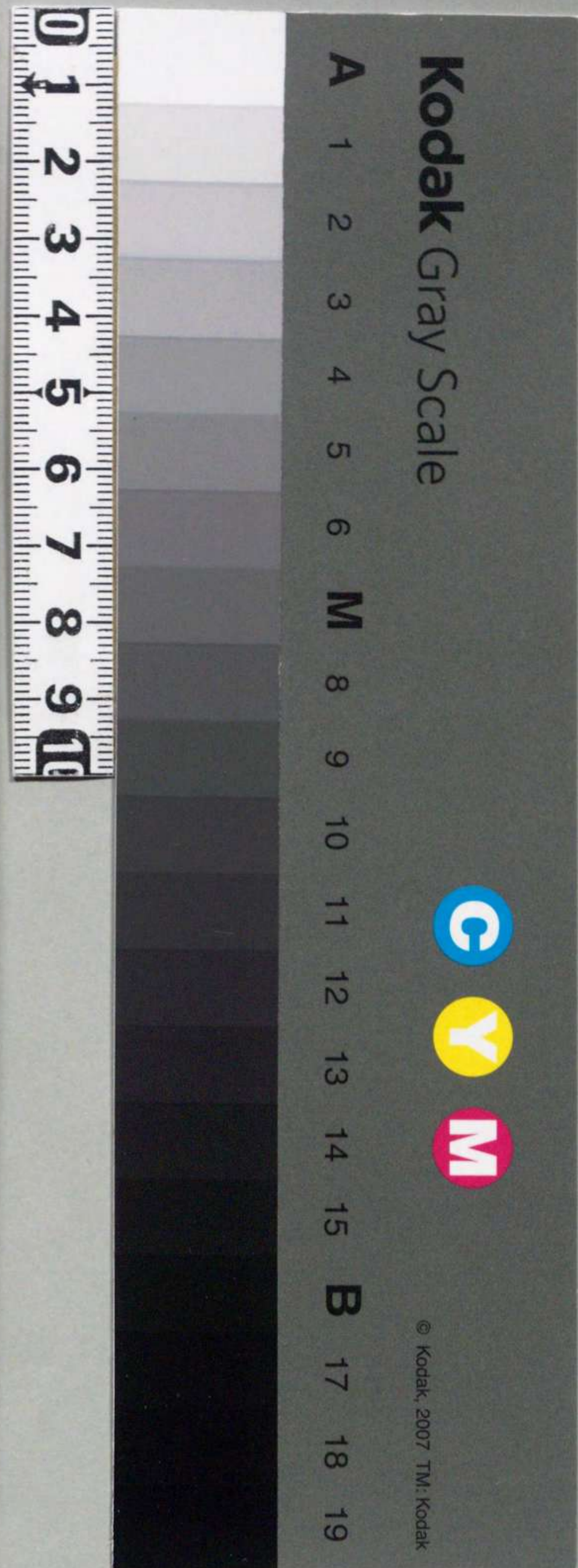


寛永諸家譜

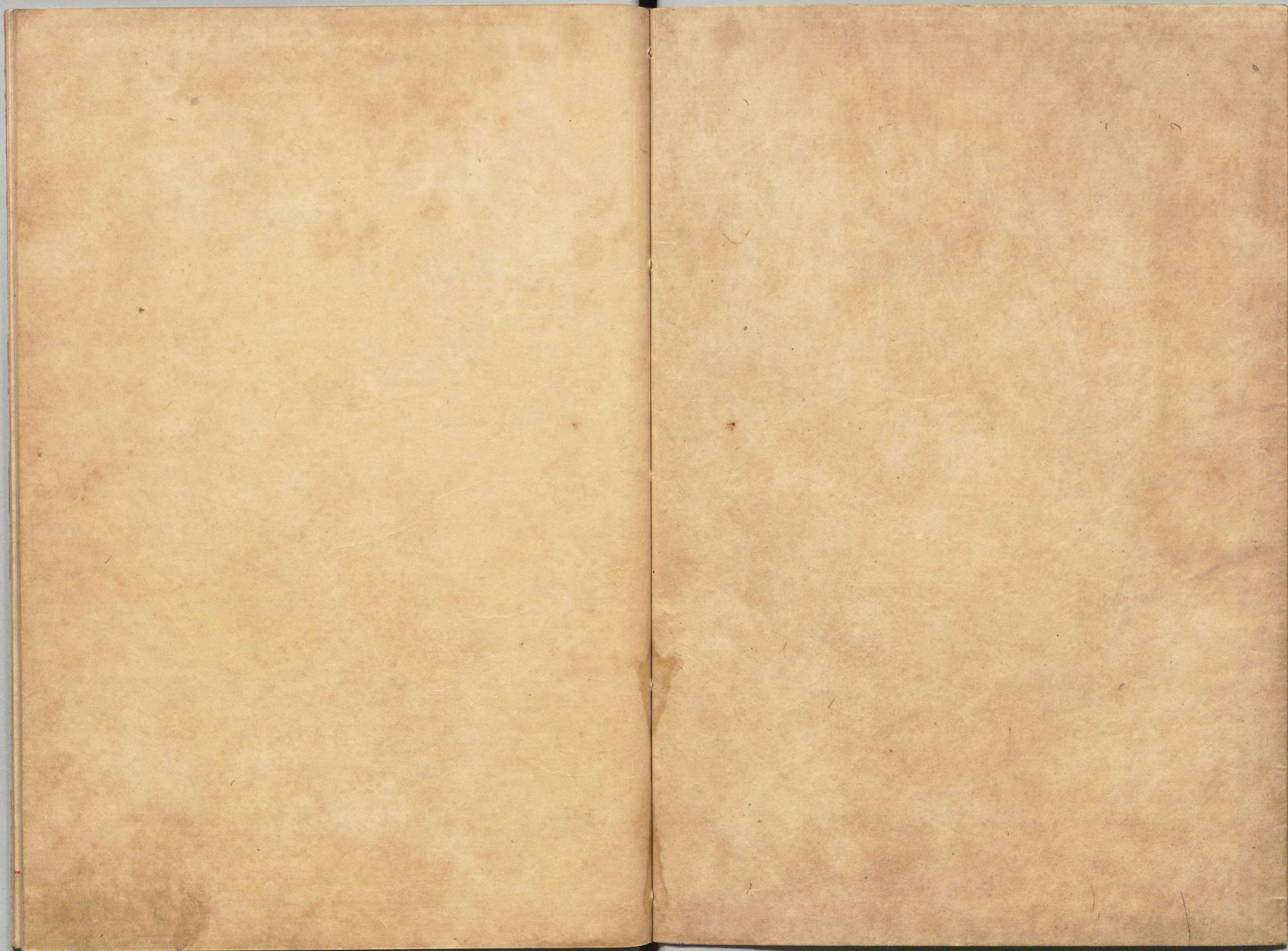
同朋

85

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 ( <del>183</del> ) 185
函號	76 1









福阿弥

大阿弥

珠阿弥

丹阿弥

靛阿弥

盛阿弥

寛永諸家系圖傳

藤原姓

作野

秀郷

千常

文脩

道光

淺草文庫



頼行よりゆき

結守府將軍むすぶのりょうぐん

安房守やすらふのりょう

瀧名大吏たになのりょう

兼行ともゆき

成行なりゆき

足利次郎大吏あしかがのりょう

家總いへら

次郎大吏のりょう

俊總とゆら

足利大郎あしかがのりょう

お羽守おはねのりょう

後五位下ごごいげ

忠總とゆら

足利又次郎あしかがのりょう

成俊なりゆき

佐野庄司さののりょう

有總ありゆら

足利次郎大吏あしかがのりょう

基總もとゆら

佐野大郎さののりょう



國繼 くにつぐ

太郎

あれより下大系苗よりなり

美繼 みつぐ

成繼 なるつぐ

小右衛門

新田村

越前守 えちぜんのかみ

是繼 これつぐ

小見と号す こみ

善治郎

建武年中奥羽の國司小曾頭家善氏  
と追討のついでに是繼修をよそ  
のら頭家宗則よりおわく討死のは是繼  
伊勢の玉目権太烟を能くし居りて  
勝則より信一河越郡代目善相村  
を領すこれより代々國司よりつゞ  
けは叔代断絶す



某

佐野式部

某

佐野式部  
法名道澄

某

佐野式部

法名道因

忠次

佐野次右衛門尉

正重

佐野福阿弥

十一歳の時  
善阿弥を奏  
名也  
漢

多氣國司具教より  
信長具教を  
しらぬるはせし  
は忠次法則よりゆき  
織田信孝よりゆき  
信孝生害のり  
参刑より法く  
大指現より法く  
とてまある



ねりおわく  
大権現おんけんは播磨はりまに  
をほむ

正長せいちょう

このこの作野福あきのふくのふ

い衆いしゆののふ

お徳院とくゐん殿のりり播磨はりまに  
ののふ

ののふふ父ちちりりととららままはは 釣命つりいのちと

よりよりととききをを由よしりり父ちちがが役やくをを勤こじ

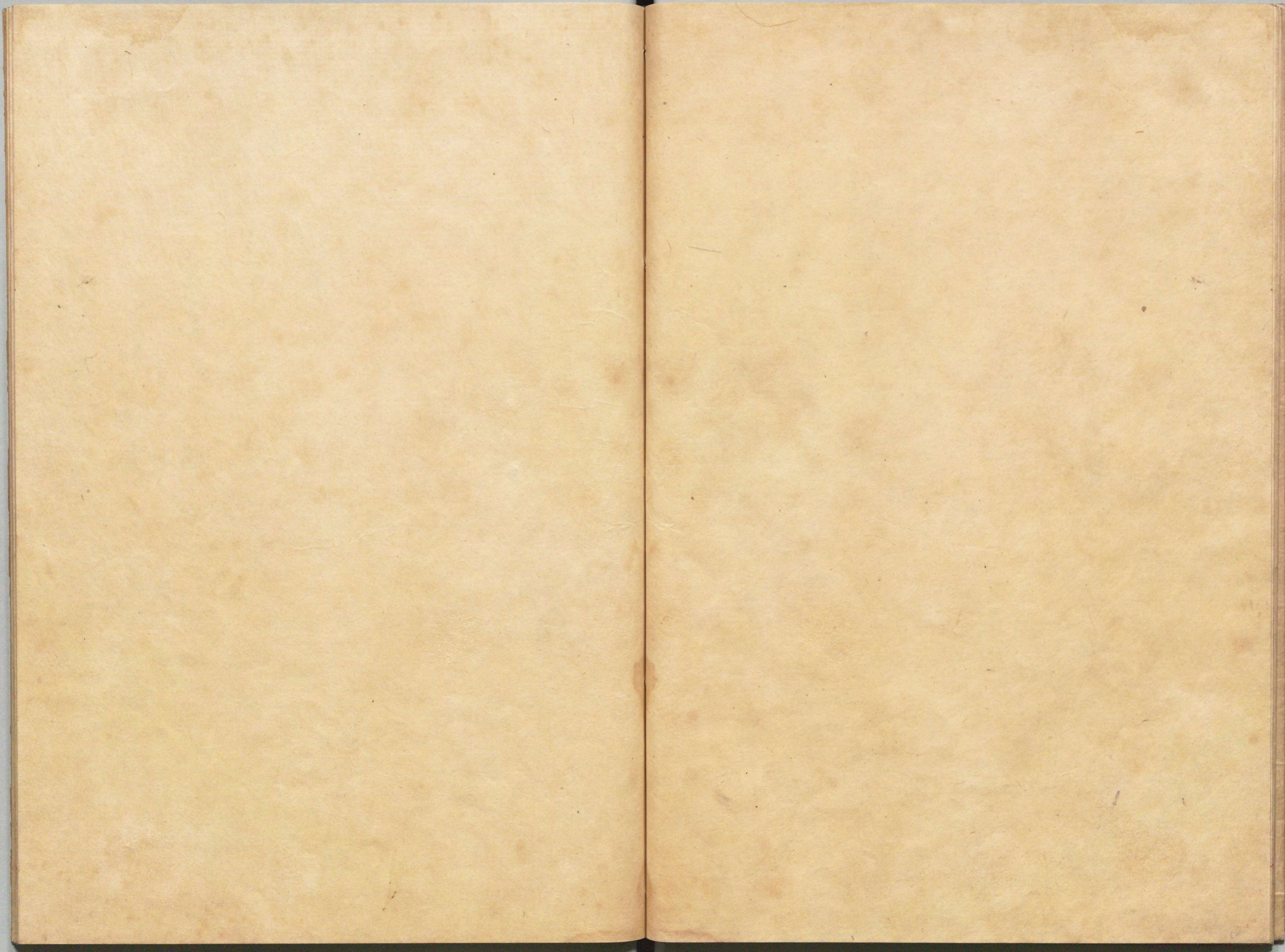
寛永九年かんえいくわんねんより

將軍しやうぐん家けりりほほふふととままつつりり 日ひ役やくを

ほむ

家のいへ紋もん車くるま小せう夫ぶ若わ丸まるのの内うちはは存ぞん存ぞん







菅原姓

牛田

某

越後

くろめ氏康の女  
子系國流り嫁とて此にありて  
ひ下総五作倉下りて國流り  
てのら浪人とかりて江戸り居



又長年病死は 法名本卷津喜

系周

丹阿弥くくめは名は但馬生國下總使念  
八歳のとき此書阿弥と先容やしく  
右徳院殿りめおされ同朋とたりて  
はくくくそまらふ  
元和五年り病死は歳二十九  
法名源常丹阿弥院佛

系如

丹阿弥 生國氏院江戸  
七歳ふて  
右徳院殿りめおされ父の病を繕く  
同朋乃伎を法も  
右徳院殿薨御の候  
病ありはくくそまらふ



家の級丸の内井



清和源氏

石川

春久

の島右衛門

生國三河碧海郡

あ三河よりおわく

大権現より津福つとくへとまらふらふら山やま

中い懐の神主但馬柳原隼之助ゆきのすけをよび

春久より命いのちじて春別山はるべ中なかつ此一揆このを



由せしじら記り古久病あり  
り金何れとありて善子とあり  
漢相りありあり  
大権現り法之とありてまづありて古久  
る題く之別り居候一病あり  
法名道心

古次

金何れとありてまづありて古久  
る題く之別り居候一病あり

古久養く子あり

永禄八年十三歳あり

大権現り法名あり

鉤命りありて同朋となり福あり

也名あり

大権現の仲息女小糸氏と嫁り

り此後なして小田原りありて其

病ありありありて久ありて

居あり



享長十九年病平漢と海よりく  
大指現りしはくそくまなり名と  
たのく金阿弥也り  
大指現薨御の  
古徳院殿りしはくそくまなり又約  
名とそくまなり志長つりり  
寛永七年り死と歳七十八  
法名等云

久次

又阿弥

元和五年り

古徳院殿りしはくそくまなり

古徳院殿薨御の後

お守り家りしはくそくまなり

猶次

観阿弥



ぢり えんり  
美ら重何糸の外縁なり元和八年書  
子やして蓋阿糸の記をほさ忠も  
りほふまう〜せ  
寛永十甲子より

將軍家入りほへふてらうる

家の紋丸のりよかの字



未勘

永念

重弘

七葉

生國大和

今川氏志より法之りく遠別小

山より居止

天正二年より病死止歳五十

法名道林



重安

宗琳 琳河孫 生國幸江

至正十年 幸河孫 漢州 抄る 抄る

善河孫と先容也

大指現り 殊賜

田朋と好子

同十二年 長久之 手 涉陣 此也

善河孫と同一く 軍功あり 抄る

旨 瀧院殿より 抄る

旨 長老子

旨 瀧院殿の 物命より 抄る

抄河孫也

元和五年 物命と 抄る

將軍家より 抄る

同九年 抄軍 室下 御参内 の内 抄る

馬少く 抄る

寛永九年より 抄る 歳七十六



法名素的

真治

环阿环

生圃茂苑

先环阿环手安の事母子とたり

寛永八年

將軍家より法之入とてまつり同朋乃

後とつて

実と板倉作酒治法、疎と高澤治法の子

なり祖父治法上総國に生れ左乳乃

城主酒井伯耆守より法之入とて天

正十四年より病歿せし歳五十三

法名とて祖父治法と酒井伯耆守没

落のほあふりり寺次高摩より

法よる事二三手よりとて高と総國

より返さ居

寛永十九年より死し歳六十九

法名目榮



永倉家の紋丸の白の石金  
坂倉家の紋た巴



平之

平之

勘次郎

平之

平之

平姓

去肥

甲郎在集  
武田信玄より活之七十余歳少く死す



父道正の書詔と銘一信玄より信長  
甲別使落乃信濃人となり  
享正十九年六十四歳より死す

正次

判發して休まると号す

右徳院殿浄代より信長より号す

宗次

寛永十八年十二月十一日 釣糸より

より判發して盛阿弥と号す

竹代君より信長より号す竹回朋の

号をす

家の及こつ頭た巴







